

事業終了報告 概要表 (1頁以内)

プログラム名	ミャンマー避難民人道支援プログラム (緊急対応期)				
事業名	バングラデシュ・コックスバザール県ミャンマー避難民キャンプ衛生施設修理チーム育成事業 Capacity Building Project for Repair Team of WASH facilities for Refugee from Myanmar in Cox's Bazar, Bangladesh				
開始日	2020年3月31日	終了日	2020年7月31日	日数	123日間
団体名	認定NPO法人IVY			担当者名	安達 三千代

事業目的	コックスバザール県ミャンマー避難民キャンプにおいて、衛生施設の修理を担う修理チームを住民の中から育成し、衛生施設が常に使える状態を維持し、感染症、皮膚病等の発生を抑制する。				
事業の成果 (概要)	本事業では、IVYがこれまで衛生設備を設置してきた4つのキャンプ(16、18、19、22)を対象に、キャンプ1つにつき1チーム、計4つの修理・消毒チームの育成を行った。42日間の研修を通して、難易度別に1～5段階に分かれた課題に臨み、必要な技術を習得したとともに、破損していたトイレや水浴び室を修理したことで290施設が使用可能になり、COVID-19感染予防のため延べ10,734か所が消毒された。				
成果の達成度とそこから得た学び				裨益者(誰が、何人)	
1. 衛生施設修理チームの育成 【成果の達成度】 4つのキャンプにおいて、避難民の中から公募で選ばれた1チーム4人、計4チーム16人からなる修理・消毒チームの人材育成を行った。チームは、大工や左官の技能がある者1人ずつと未経験者だが大工や左官に関心のある者2人の編成とした。基本研修(2日間)では、全員が安全管理、時間管理、必要な資材の見積りと資材調達票への記載、工具の正しい使い方等を学んだ。次に実地研修(40日間)では、各チームで修理が必要な施設を見つけ、修理計画、材料の発注等を行うとともに、難易度別に1～5段階に分けられた課題の各目標数をクリアすると同時にそれぞれに応じた修理技術も身につけることを目指した。難易度の5の「トイレのコンクリートリングの交換」等、交換が必要な物件がちょうどなかった課題もあり、すべての段階の修理体験を積むことができなかったチームもあったが、難易度1～3については各チームが目標をクリアまたは修理を体験することができた。その結果、40日間で修理した衛生施設は290施設、修理か所は714か所となり、修理した290施設すべてが修理後使用可能となったことが確認されている。またCOVID-19感染予防のため延べ10,734か所が消毒され、感染症、皮膚病等の発生抑制に寄与する人材を避難民の中から育成することができた。 【学び】				直接裨益者： ①修理チーム16人 ②WASH管理委員会と衛生促進員256人 間接裨益者： 住民29,320人(子ども12,020人、女性9,383人、男性7,919人)	

本事業で選定した修理チームのメンバーは、建設やセメント施工の手伝いやキャンプ内での建設作業といった仕事を経験したことがあるが、いくつもある修理箇所のスケジュールを自身で計画し、必要な資機材を揃えて修理していく、ということは初めての経験であった。そのため実地研修の開始当初は戸惑いが見られたが、エンジニアとコミュニティモビライザーへ質問したり、指導を求めたりするような関係ができたことで、事業終了前の個人評価では、メンバー全員から「自信をもって衛生施設の修理ができるようになった」という声を聞くことができた。マネージメントから修理まで一連の作業を体験することが自信につながることを改めて学んだ。

スタッフ側も、日々、修理チームとのやりとりを通して、人材育成事業の意義やどのような関係を築いていくと良いかをやりながら学んだ。コミュニティモビライザーからは、「修理作業をした達成感や修理を終えて裨益者から感謝された時、自分でできるようになった時の自信が出てきた顔を見た時、単純労働でただ命令されるままに作業していた彼らの今までと、技術を身につけて仕事として主体的に働くこととの違いがわかった」など、スタッフの側も新しい経験を積み、成果を感じることで自身の自信や充足感につながることを学んだ。

事業の成果

<u>事業全体としての成果</u>	本事業では、IVYがこれまで衛生設備を設置してきた4つのキャンプ（16、18、19、22）を対象に、キャンプ1つにつき1チーム、計4つの修理・消毒チームの育成を行った。42日間の研修を通して、難易度別に1～5段階に分かれた課題に臨み、必要な技術を習得したとともに、破損していたトイレや水浴び室を修理したことで290施設が使用可能になり、COVID-19感染予防のため延べ10,734か所が消毒された。					
<u>事業開始前の状況</u>	事業開始時に目指した個別の成果	目標値（成果を図る指標）と確認方法	事業実施後の実績（事業開始時に立てた目標値に対する実績）	実施された活動（具体的に記載）	事業実施後の個別の成果および副次的効果	<input type="checkbox"/> 正の外部要因 <input type="checkbox"/> 負の外部要因
・ミャンマー避難民キャンプにおいて、現在までトイレは54,854基建設されたが、元々が簡易な作りであるため、毎日多くの住民が使用することにより、蝶番が外れる、鍵が壊れて扉が閉まらなくなる、床板が割れて用	1. 各修理チームが難易度1～5までの修理技術を習得する。 2. 各修理チームが、課題として与えられたトイレ、水浴び室	1-1. 各修理チームメンバー全員が2日間の研修、30日間の実地研修を受講する。 1-2. 各修理チームによって、修理スケジュール、資材調達票	1-1. 全員が2日間の研修、40日間の実地研修を受講した（131%） 1-2. 各チームが修理スケジュール、資材調達票を作成した。（100%） 1-3. エンジニアによって各修理チームメンバーが各職種に応じた知識技能を習得	①WASH管理委員会と衛生促進員への事業説明およびCOVID-19感染予防のための意識啓発トレーニング、事業説明、Camp in Charge（以下CiC）及びThe Office of the Refugee Relief and Repatriation	<成果> ・各修理チームが修理技術を習得し、トイレ、水浴び室を修理することで、破損していた計290か所が使用可能になった。 <副次的効果> ・各メンバーにとって、いくつ	<input type="checkbox"/> バングラデシュ政府によるFD7 ² 発行が遅れた。 <input type="checkbox"/> 承認プロセスのステップが増えたこともあり、FD7取得後も現地での活動

² FD7: バングラデシュ NGO 局(NGO Affairs Bureau)へ緊急支援事業を実施する際のプロジェクト許可申請の様式。参照：

https://www.jica.go.jp/partner/ngo_support/japandesk/jd_bangladesh_e.html

<p>が足せなくなる、浄化槽のコンクリートリングにヒビが入り糞尿が垂れ流しになるなど、建設しても使用ができなくなってしまい、やむをえず外用を足す住民が後を絶たないため、キャンプ内の3,920の水源のうち、16%から病原体が見つかり、感染症が高止まりしている原因の一つとなっている¹。</p> <p>・事業地の一つキャンプ19では5,471世帯23,900人の避難民が暮らしており、キャンプ内に1,273基の衛生トイレと915基の水浴び室があるが、2月5日のキャンプWASHコーディネーションミーティングではそ</p>	<p>を修理することで、破損していた計64か所のトイレ、水浴び室が、使用可能になる。</p>	<p>が作成される。</p> <p>1-3. エンジニアによって、各修理チームメンバーが各職種に応じた知識技能を習得したことが確認される。</p> <p>2. 修理された256か所（64か所×4チーム）の施設が機能していることが確認される。</p> <p>【確認方法】</p> <p>1-1. モニタリング報告書、研修の出席簿、修理スケジュール表、資材調達票、知識技能習得チェック表</p> <p>1-2. モニタリング</p>	<p>したことを確認した。（93%）</p> <p>2. 修理された67～77か所、4チーム計290施設が機能していることを確認した。（113%）</p>	<p>Commissioner（以下RRRC）の承認取得</p> <p>②IVY-DSK修理チームメンバーの選定</p> <p>③IVY-DSK修理チームメンバーを対象とした、衛生施設の修理に関する研修の実施、修理に必要な工具や装備の提供およびCOVID-19予防対策についての基礎知識と安全確保についての研修、水衛生施設の消毒に係る研修、消毒に必要な資材や装備の提供</p> <p>④IVY-DSK修理チームが研修期間中に課題として修理する衛生施設物件の調査および選定</p> <p>⑤エンジニア指導の下、IVY-DSK修理チームによる課題物件の修理および</p>	<p>もある修理箇所スケジュールを自身で計画し、必要な資材を揃えて修理していく、ということは初めての経験で戸惑いもあったが、マネジメントから修理まで一連の作業を体験することで自立への自信につながった。</p> <p>・コミュニティモビライザーにとっても、同じ裨益者とこれほど長く関わる研修は初めての体験だったが、指導を求められたり、日々のやり取りの中で支援者と裨益者という関係を超えた新しい見方ができるような人材に成長できた。</p>	<p>開始までには1ヶ月近くの時間を要する結果となっていました。</p> <p>✓モンスーン真っ只中の事業であったが、晴れの日や小雨の午前中などを見計らってスケジュールを組みながら修理活動を継続することで、サイクロンの影響を避けることができました。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

¹ Water Quality Dashboard

<https://public.tableau.com/profile/tanvir.ahmed#!/vizhome/WaterQualityDashboard-FieldAgencies/Dashboard>

ジャパン・プラットフォーム提出用（フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。）

<p>のうち103基のトイレと65基の水浴び室が故障して使用できなくなっていることが報告されている。</p>		<p>報告書</p>		<p>修理に際して COVID-19 予防対策のため課題物件と周辺の消毒 ⑥モニタリング及びフォローアップ</p>		
--------------------------------------------------------	--	------------	--	---------------------------------------------------------------	--	--

事業終了報告書

1. プログラム名 ミャンマー避難民人道支援プログラム（緊急対応期）
2. 事業名 バングラデシュ・コックスバザール県ミャンマー避難民キャンプ衛生施設修理チーム育成事業
3. 団体名 認定NPO法人IVY
4. 事業期間 2020年3月31日～2020年7月31日（123日間）

5. JPF助成金収支概要

	政府支援金	民間資金	総額
予算額	4,633,336円	0円	4,633,336円
執行額	4,633,336円	0円	4,633,336円
返還金額	0円	0円	0円

6. 国内担当者名 安達 三千代

7. 事業目的

コックスバザール県ミャンマー避難民キャンプにおいて、衛生施設の修理を担う修理チームを住民の中から育成し、衛生施設が常に使える状態を維持し、感染症、皮膚病等の発生を抑制する。

8. 事業の成果

本事業では、IVYがこれまで衛生設備を設置してきた4つのキャンプ（16、18、19、22）を対象に、キャンプ1つにつき1チーム、計4つの修理・消毒チームの育成を行った。42日間の研修を通して、難易度別に1～5段階に分かれた課題に臨み、必要な技術を習得したとともに、破損していたトイレや水浴び室を修理したことで290か所を使用可能になり、COVID-19感染予防のため延べ10,734か所が消毒された。

9. 事業計画変更の記録

承認日	変更区分	変更内容の概要
2020年6月2日	①活動内容変更	コンポーネント1への活動の追加（太字下線部分） 変更後： 1-1 WASH管理委員会と衛生促進員への事業説明及び COVID-19感染予防のための意識啓発トレーニング 1-3 IVY-DSK修理チームメンバーを対象とした、衛生施設の修理

ジャパン・プラットフォーム提出用（フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。）

	<p>②費目の追加</p> <p>③期間延長</p>	<p>に関する研修の実施、修理に必要な工具や装備の提供、及び COVID-19 予防対策についての基礎知識と安全確保についての研修、水衛生施設の消毒に係る研修、消毒に必要な資材や装備の提供</p> <p>1-5 エンジニア指導の下、IVY-DSK 修理チームによる課題物件の修理、及び修理に際して COVID-19 予防対策のため課題物件と周辺の消毒</p> <p><u>※事業対象者及び人数の変更はなし。</u></p> <p>変更後：1. 現地事業実施経費（1）直接事業費コンポーネント1に「コロナ対策の消毒活動資材費及び装備費」を追加</p> <p>当初：2020年3月31日から2020年6月30日 変更後：2020年3月31日から2020年7月31日</p>
<p>2020年7月22日</p>	<p>①予算の変更</p>	<p>①1. 現地事業実施経費 （1）直接事業費：コンポーネント1 変更前：1,945,353円 変更後：2,510,737円（渡航費から「衛生関連施設の修理に必要な資材費」に484,384円、「修理チームによる衛生関連施設の修理工賃」に81,000円、合計565,384円を移動、29%増）</p> <p>（2）渡航費 変更前：565,384円 変更後：0円（コンポーネント1に渡航費の全費目合計565,384円を移動、100%減）</p> <p>理由： 引き続き修理が必要だったことや住民からの修理の希望も継続して多かったことから、7月末までの残り10日間で、これまでの研修で培った技能を生かし、避難民チームが主体となり修理活動を実施することとし、更なる（総合的な）技術力の向上に努めた。そのため、COVID-19のために駐在員が渡航できなかったため余剰となっていた「渡航費」を、「衛生関連施設の修理に必要な資材費」及び「修理チームによる衛生関連施設の修理工賃」等の活動費に充当した。</p>

10. 成果の達成度とそこから得た学び（コンポーネント別）

（1）コンポーネント1：衛生施設修理チームの育成

（ア）配布物、設置物、研修等の詳細

計画（数値等、事業計画書に基づく）	実施が計画と異なる点があれば記載
1-1. 各修理チームメンバー全員が2日間の研修、30日間の実地研修を受講する。	計画以上に達成した ・消毒の研修が追加された ・実地研修が40日間に延長された(131%)
1-2. 各修理チームによって、修理スケジュール、資材調達票が作成される。	計画通り実施（100%）
1-3. エンジニアによって、各修理チームメンバーが各職種に応じた知識技能を習得したことが確認される。	計画通り達成できた（93%） 4つの職種（大工・セメント施工職人・助手1・助手2）合計27の習得すべき技能項目数のうち、4チーム平均25項目（93%）の技能を習得したことが確認された（詳細は別添資料表7参照）
2. 修理された256か所（64か所×4チーム）の施設が機能していることが確認される。	計画以上に達成した。 ・修理して機能していることが確認された施設 各チーム67～77か所、計290（113%）、修理か所714か所 ・延べ10,734か所が消毒された

(イ) 成果の達成度（以下の3つから選択）

1. 計画以上に達成した 2. 計画通りに達成した 3. 計画通りには達成できなかった

(ウ) 達成度を判断した理由とそこから得た学び

【達成度を判断した理由】

以下のことから、「計画以上に達成した」と判断した。

- ①4つのキャンプで計画を10日間上回る40日間の研修の結果、修理チームを育成できた。また最後の10日間はエンジニアの助けなしで一連の作業を実施できるまでになった。
- ②これらの4チームが実地研修期間中、壊れて使えなくなっていた、目標を26上回る290の衛生施設を修理して復活させ再び使用できるようにし、目標を680人上回る5,800人の住民の感染症予防等に裨益できた。
- ③折しもCOVID-19の感染拡大期であったため、同じチームで当初の計画にはなかった消毒作業にも取り組み、地域住民が利用するモスクや通路、衛生施設等延べ10,734か所を消毒し、4つのキャンプの担当ブロックの全住民29,320人のCOVID-19感染予防に貢献できた。

【学び】

本事業で選定した修理チームのメンバーは、建設やセメント施工の手伝いやキャンプ内での建設作業といった仕事を経験したことがあるが、いくつもある修理箇所のスケジュールを自身で計画し、必要な資機材を揃えて修理していく、ということは初めての経験であった。そのため実地研修の開始当初は戸惑いが見られたが、エンジニアとコミュニティモビライザーへ質問したり、指導を求めたり

ジャパン・プラットフォーム提出用（フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。）

するような関係ができたことで、事業終了前の個人評価では、メンバー全員から「自信をもって衛生施設の修理ができるようになった」という声を聞くことができた。マネージメントから修理まで一連の作業を体験することが自信につながることをあらためて学んだ。

スタッフ側も、日々、修理チームとのやりとりを通して、人材育成事業の意義やどのような関係を築いていくと良いかをやりながら学んだ。コミュニティモビライザーからは、「修理作業をした達成感や修理を終えて裨益者から感謝された時、自分でできるようになった時の自信が出てきた顔を見た時、単純労働でただ命令されるままに作業していた彼らの今までと、技術を身につけて仕事として主体的に働くこととの違いがわかった」など、スタッフの側も新しい経験を積み、成果を感じることで自身の自信や充足感につながることを学んだ。

なお、各裨益者数が大幅に増加した理由は以下のとおり。

①直接裨益者数が16人から272人に大幅に増加した理由は、WASH管理委員会に対し当初は事業説明だけ行う計画だったが、COVID-19感染拡大期であったため、感染予防のための意識啓発トレーニングが追加されたため、これらの256人が直接裨益者に追加された。

②間接裨益者数については、修理作業により1チーム当たり64施設を行うことを指標として設定していた。1施設の利用者数は20人であることから、20人×64施設×4チーム=5,120人と見込んでいたが、修理して復活できた施設数は290施設だったことから、間接裨益者数も5,800人に増加した。

③さらに、COVID-19予防のための水衛生施設や公共施設の消毒活動を実施したことで各キャンプの担当ブロックの住民全員29,320人が間接裨益者に加わった。当初は、住民の人たちも、消毒活動が何のためにやっているのか理解できていない人も多かったが、消毒を行うことでCOVID-19予防やその他の感染症予防にも役立つことを徐々に理解してくれるようになった。特にインターネットへのアクセス制限が続いていたキャンプにおいて、新しいウイルスについてのデマ(間違った情報)が飛び交うなど住民の間に不安も広がっていたが、トレーニングを受けたWASH管理委員会の小グループでの情報提供もあり、消毒活動が感染予防だけでなく、不安やデマの解消にも一役買った。

一方、16、19、22チームの大工は、難易度4と5において技術習得に至らなかったが、例えば、難易度5の課題は「トイレのコンクリートリング(浄化層)の交換」や「修復不可能な施設の撤去」となっているが、修理の対象となる施設案件が40日間の研修期間中には担当地域ではなかったことによる。(職種別技能の習得状況は別添資料表6参照)修理の難易度の高い案件ほど、修理の発生頻度は低くなるので、今後は頻度の高い難易度3までを指標とし、4以上は努力目標とする等改善を図る必要があることを学んだ。一方、別添資料表6のとおり、大工以外の3職種ではすべての必要な技能を十分理解していることが確認された。

11. 事業の自己評価とその根拠

(1) 事業計画・実施の妥当性・適切性 (Relevance/Appropriateness)

・避難民キャンプの衛生施設は、鉄筋コンクリート製のような恒久施設ではなく、トタンや安価な木材で作られた臨時的簡易施設である。しかし、一つのトイレや水浴び室を毎日20人以上の人が共同で使用しているため、特に開閉するドアの蝶番や鍵等が壊れやすい。従来のキャンプでは、衛生施設

ジャパン・プラットフォーム提出用 (フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。)

はサブブロックごとに組織されたWASH管理委員が週1回見回りを行っているが、不具合が見つかった場合はWASHフォーカルのスタッフに知らせ、常設の修理チームがいないため、外から修理業者を呼んで修理が行われるというのがこれまでの一般的な維持管理体制だった。1キャンプ1日あたり10件以上の問題や苦情が寄せられていた。しかし、今年3月以降COVID-19が感染拡大する中、感染ルートを断つため、外からの人の出入りが厳しく制限されるようになり、多くの施設の損壊箇所が修理されないまま放置された。

このようなキャンプの危機的状況下、本事業がスタートしたが、衛生施設修理チームが2日間の研修と40日間の実地研修を通じて各職種に応じた修理技能を習得し、**目標 256 施設に対し 290 施設**と目標を上回る数の衛生施設が彼らの修理により常に使える状態となったことが確認されている。研修とは言え、彼らの活動のおかげで破損した衛生施設を長期間放置せず、キャンプ住民の手で復旧して常時使用可能な状態に戻すことができたが、と同時に本事業が人材育成や衛生施設の維持管理の体制強化に有効であることも実証することができた。

・事業開始当初はCOVID-19が感染拡大し始めた時期であり、キャンプの中にはインターネットが繋がらないので、正確な情報を得ることもできず、様々なデマが流れていた。そのため、バングラデシュ人スタッフがキャンプに入って活動することに対してミャンマー避難民からの理解が得られず難しい時期があった。しかし、WASH管理委員を対象にCOVID-19の情報や感染防止に有効な手洗いやマスク着用、フィジカルディスタンスについてトレーニングを行った活動が適切だったため、感染予防についての理解や正しい知識が住民の間に徐々に広まり、外部の人間に対する警戒心を和らげることができた。

・修理施設についてはスタッフが修理チームとともにアセスメントを実施して修理を進めた。また、WASH管理委員への事業説明の際に修理依頼の方法についても伝え、住民の修理のニーズを適切にこみ取った。

(2) 事業の連結性または持続可能性 (Connectedness or Sustainability)

- ・本事業において研修を実施したキャンプ16と22の修理チームは、IVYの後継事業において建設チームとしてスキルアップを図り、水浴び場と手洗い場の建設活動に取り組み、事業終了後もキャンプ内での雇用につながるような体制づくりをエリアフォーカルのユニセフやWASHフォーカルと協力して実施している。
- ・本事業の対象とした4つのキャンプの内、キャンプ18と19においては、エリアフォーカルのIOMと後継事業の実施について調整をつけることができなかつたため、IVY-DSKチームで働くことができなくなったことは残念だった。しかし、これらのキャンプには、現地提携団体DSKとIOMが組織している別の修理チームがあるが、自己都合で辞める人が多いので、欠員が出れば本事業で育成したメンバーを積極的に雇うとDSKでは言ってくれている。

自

(3) 事業実施における効率性 (Efficiency)

予算面での効率性

- ・事業提携団体DSKとの2事業目の連携であること、COVID-19感染拡大の影響もあり、最小限のス

ジャパン・プラットフォーム提出用 (フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。)

スタッフで計画・実施できたことから、効率性は高かった。

・日本人スタッフの渡航が中止となったため、渡航費の余剰金を生かし、事業期間を1か月間延期して、実地研修の資材費や修理チームの人件費に有効活用することができた。

時間面での効率性

・先行事業実施期間内に本事業の実施が決まったため、FD7の申請を早めに行えたことで、The Office of the Refugee Relief and Repatriation Commissioner（以下RRRC）、Camp in Charge（以下CiC）、エリアフォーカル、WASH キャンプフォーカルとの調整を行っている間に、スタッフの雇用や研修内容の打合せ等が行なうことができた。

プロセスの効率性

・WASH 管理委員メンバー対象の事業説明会について、避難民自身が新型コロナの感染を恐れて呼びかけをしてもなかなか理解が得ることができず、開催が遅れていた。しかし、小グループでの開催に変更することで完了させることができた。

・現地事業統括が現地赶赴できなかったが、毎朝、現地のプロジェクトコーディネーターとスカイプで連絡を取り合い、またCOVID-19の感染状況をはじめ、現地の進捗状況をエクセルでまとめて送ってもらうなどして、リモートでのハンディを克服できるよう工夫した。

リソースの効率性

・本事業のプロジェクトスタッフの多くは、既にキャンプにおいて提携団体および他団体で支援活動をした経験のある者が多く、人材とその技術などのリソースを十分活用できたといえる。

以上のことから、事業全体としてはCOVID-19感染予防対策のための活動制約があったにも関わらず、柔軟に対応し状況改善をしつつ、効率よくすすめた結果、多くの成果を上げることに繋がったといえる。

(4) 事業実施における有効性 (Effectiveness/Timeliness)

・修理ニーズ数は当初想定していたよりも多く、対象とした4つのキャンプにおいて、修理チームが修理および消毒した衛生施設290か所が継続して使用できる状態になったことは、野外排泄を減らすこと、COVID-19だけでなく下痢等の感染症を予防することにもつながったことから有効性は高かった。

・人口が密集しているため、常にCOVID-19のパンデミックが懸念されたキャンプにおいて、感染予防のために、ストレスを減らし、身体の衛生を保つことの重要性はますます高まっている。修理したトイレと水浴び場によって、安心して自身や家族の清潔を確保することができた。裨益者のアンワラさん(38)は家のそばにある水浴び場の屋根がずれて雨漏りし、ドアが開け閉めできない状態になっていた。WASH管理委員会へお願いしても3ヶ月ほどどうにもしてもらえなかったが、修理チームにやっと修理してもらえて、遠くの水浴び場に行かなくて良くなったと感謝された。モニタリングの際には、各キャンプで主に女性から屋根を修理したことにより外からのぞかれな

くなったり、ドアをきちんと閉じられ鍵もできるようになり「安心して使えるようになった」という声が多数聞かれた。

以上により、本事業は有効性があったと判断した。

(5) 事業実施に際しての調整 (Coordination)

- ・ 難民キャンプにおける活動の全体方針については JRP2020 および COVID-19 対応計画 2020 と WASH セクターの方針に沿って実施し、WASH セクター内の「全体調整会議」、「衛生啓発ワーキンググループ」に参加した。4 月以降、COVID-19 の影響で各ミーティングはオンラインでの開催となったが、日本からも参加し、最新の情報収集や必要な調整を心掛けた。
- ・ 一方、キャンプレベルではキャンプ WASH フォーカルを中心に、隔週開催されるキャンプ WASH コーディネーションミーティングに現地提携団体のスタッフが必ず参加し、同じキャンプ内で活動する他団体と情報共有および調整を行なった。
- ・ 本格的な活動開始直前に、各キャンプの CiC、WASH フォーカル、WASH エージェンシーのスタッフに対し、WASH 調整会議の中で、当事業についての説明を行った。その際、参加者からの質疑応答や助言を受け、事業開始以降も各関係者と調整をしながら事業遂行に努めた。
- ・ 活動実施中は、修理や消毒を行った衛生施設の詳細 (GPS、施設名または登録No.等)、日時、修理箇所等をエクセルで管理し、他団体の活動と重複しないよう、細心の注意を払った。後に、キャンプ 18 と 19 の WASH エリアフォーカルの IOM から重複について監査を受けた際にも説明資料としてこの記録が大いに役立った。

(6) 事業実施によるインパクト (Impact)

- ・ 避難民から選ばれた修理チームが、修理案件の調査からスケジュール管理、部品の発注から修理に至る一連の工程を習得したことにより、特に今回のような緊急時には外からの人材に修理を頼れないときでも中の人間だけで衛生施設の修理ができるという希望と安心を避難民や関係者に与えることができた。

(7) 人道支援の必須基準 (CHS) 及びスフィアスタンダードへの適合性 (Observance of CHS / Sphere Standard)

本事業では、モニタリング評価および事業運営を含み、以下のとおりスフィアスタンダード (CHS 含む) の該当項目に基づき対応した。

【CHS の適合性について】

基準	対応
CHS4.3 「支援のあらゆる段階において、影響を受けた地域社会や人びとの参加と関与を確保する」	<input type="checkbox"/> 修理する箇所を決める際にアセスメントを実施したが、女性・子ども・高齢者・障がい者の意見を聞き取り、事業に反映させた。
CHS4.4 「影響を受けた地域社会や人びとのなかでも、特にジェンダー、年齢、多	<input type="checkbox"/> アセスメント、モニタリングの際には、女性に対しては女性スタッフや話慣れているスタッフが出

<p>様性を有する配慮が必要な人びとに、支援の受け手として感じる質や効果についての満足度に関して、意見が出しやすいように働きかけ、その環境を作る」</p>	<p>向き、意見を出しやすい環境を作れるように心がけた。また、事業説明の際に、苦情が生じた時のための苦情箱、サイトマネジメントの場所を伝えた。</p>
<p>CHS5.3「苦情や要望対応は、公平かつタイムリーに行い、申立人や事業によって影響を受ける人びとの安全を最優先する」</p>	<p>□ 実際に苦情はなかったが、裨益者からサイトマネジメント等を通じて苦情が届いた際には、特に内容によって、例えば不正や性的搾取等の場合には、通報者の安全を最優先し、弊団体とパートナー団体のプロジェクトコーディネーター以上の職位の者が極秘で調査を行い、DSK 事務局長、現地事業統括と対応を協議するための体制を整えた。</p>
<p>CHS6.6「パートナー団体と協働する際には、各団体の任務、義務、および自立性を尊重し、各団体の制約や具体的な関わり方（コミットメント）を認識し、明確で一致した合意によらなければならない」</p>	<p>□ 現地提携団体 DSK とのパートナーシップを効果的に責任のあるものにするため、MoU におけるお互いの役割を明示するとともに、クトゥパロン事務所においても、活動開始前に事業スタッフとキックオフミーティングを行い、相互の役割と責任を双方が明確に理解するように努めた。</p>
<p>CHS8.1「職員は組織の責務と意義、そして合意に基づいた職務の条件と内容に沿って支援活動に従事する。」</p>	<p>□ 職員に期待されている内容について伝達・説明した。</p>

【スフィアスタンダードの適合性について】

基準	対応
<p>【給水、衛生および衛生促進】 し尿管理基準 3.2：トイレのアクセスと使用 ガイダンスノート「緊急支援として共同の衛生施設を建設した場合、特定の運営維持管理の要件が発生する。例えば、臨時措置としてトイレ清掃者への支払いをすることを地域社会と合意する場合は、明確な支援の出口戦略をもって行う」</p>	<p>□ 修理チームを各キャンプオフィスの中に位置づけ、本事業終了後に IVY-DFK 修理チームへの管理・指導の他、修理チームメンバーへの人件費、各衛生施設の修復費用、資材調達の支援についても DSK に引き継ぐための情報共有を行った。</p>
<p>【給水、衛生および衛生促進】 基準 6：保健医療における WASH すべての保健医療施設は、アウトブレイク（集団感染）を含めた WASH が関わる疾病予防と対応の最低基準を維持している。</p>	<p>□ 左記は保健医療分野を対象にしているが、衛生管理に関して保健医療分野と関連性の深い WASH においても、COVID-19 に際し、これらに準じる対応が求められている。そのため、WASH 管理委員会への説明と啓発活動を通じた衛生促進において、COVID-19 に関する情報を含めたり、キャンプ住民と接</p>

	するスタッフにはマスク着用、1m離れての会話を課すなどの対応を行った。
--	-------------------------------------

12. 事業管理体制

(1) 人員配置

本事業は、IVYとDSKが共同で事業を実施し、下記の人員配置を計画し実施した。

事務所	スタッフ配置 (DSKとの合意)
IVY本部事務所 (山形市) 【役割】事業全体やJPFとの調整、財務、駐在・職員の公募と採用・労務、監査を担った。	①事業総括…0.05人役 ②事業総括補佐…0.05人役 ③事業総括補佐…0.05人役 ④会計担当…0.05人役
IVYバングラデシュ事務所 (コックスバザール) 【役割】遠隔で事業全体の調整の他、現地でRRRCやWASHセクター、現地提携団体本部との調整及び経理や広報、キャンプ内の活動、フィールド事務所との調整等を行なった。	①現地事業統括(日本人)…1人役 ②プロジェクトコーディネーター…1人役 ③クリーナー…1人役
現地提携団体DSK本部 (ダッカ、コックスバザール) 【役割】NGO局(FD7取得手続き)、RRRC、現地行政との調整、財務、職員の公募と採用、業者選定確認、現地監査等を担った。	①DSK事務局長…0.05人役 ②DSK財務ディレクター…0.04人役 ③DSK共同ディレクター(ミャンマー避難民支援)…0.05人役 ④DSK共同ディレクター(人事)…0.04人役 ⑤DSK共同ディレクター(モニタリング)…0.04人役 ⑥DSKディレクター代理(IT)…0.04人役 ⑦DSKアシスタントディレクター(トレーニング)…0.04人役
クアトパロンフィールド事務所 (フィールドの活動拠点) 【役割】エリアフォーカル・CiC・各キャンプWASHフォーカルとの調整、WASH管理委員会への説明と啓発、修理チーム選定、修理チーム研修、アセスメント、業者選定、資機材調達、モニタリングを行った。	①フィールドコーディネーター…1人役 ②事業担当会計…1人役 ③事務所庶務…1人役 ④エンジニア…1人役 ⑤コミュニティモビライザー…4人役

本事業は、現地提携団体DSK協力の下、IVYが実施した。

□ 現地提携団体とともに活動を行った理由

バングラデシュで支援活動を行う際にはNGO登録が必要であり、NGO登録の取得には1年以上の時間

ジャパン・プラットフォーム提出用 (フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。)

を要する。一方、現地の事情をよく把握し、すでに避難民キャンプでの支援活動経験もあり、コンプライアンスの点でもパートナーを組める能力と経験を備えたナショナルNGOが複数ある。これらの事情から、事業の質と説明責任を担保し、事業を効率よく効果的に実施するためには現地提携団体との連携が必要不可欠と判断した。

□ 上手くいった点

DSKはWASH分野での専門性や経験値も高く、事業対象地の4キャンプ(16、18、19、22)において他の支援による事業もあったため、情報共有の依頼をしやすく、また引継ぎをしていきやすかった。また、全事業期間を通じて日本人が駐在出来ず、プロジェクトコーディネーターとフィールドコーディネーターへの負担は大きかったが、不明な部分や事業を進める上で不安な部分等をお互いが確認し合える信頼関係を構築しつつ、遠隔でも円滑なコミュニケーションを心掛けることができた。

□ 上手くいかなかった点

DSKのスタッフは水衛生分野において、特にエンジニアやコミュニティファシリテーター、コミュニティモビライザーといった人材を抱え、2018年の活動開始以来、キャンプでの経験が豊富なコーディネーターも多い。しかしながら、技術を使った活動が多かったため、人材育成ということでチームにまかせていくことについて理解してもらうことに時間がかかった。

(2) 資金管理

現地パートナー団体DSKに係る日常の資金管理、証憑については、各団体の財務責任者の監督のもと、事業担当会計が事業地からの購入依頼書に応じて資金の出金管理、および事業支出に関する証憑管理を行なった。また、現地事業統括と事業担当会計の間で、定期的に証憑チェックを行い、適切な証憑の取得や支払い、予算管理が行われているか確認した。

(3) 安全管理体制

IVYプロジェクトコーディネーターは、本事業に関わるスタッフ、直接裨益者（各チームメンバー）に対し、COVID-19感染予防のため、以下の指導を徹底した。

<COVID-19感染予防対策>

- ①活動開始前の検温（37.5度以上の場合は自宅待機）と体調確認（発熱、喉の痛み、味覚臭覚異常等の症状がある場合は自宅待機）
- ②キャンプでの活動時の防護具（マスク、手袋、帽子、防護具）の着用
- ③1時間毎の手洗い（水がない場所ではジェル）
- ④フィジカルディスタンスの徹底
- ⑤防護具の洗浄管理等について週1で正しい処理をしているかの確認

<感染が疑われる場合>

- ①COVID-19と思われる症状が出ている、濃厚接触の可能性があるので、感染が疑われる場合は、出勤、研修を取りやめ、医療機関を受診し、医師の診断と助言に従う。
- ②出勤、研修への参加許可は、2週間の隔離後もPCR検査で陰性証明が出てからとする。

<事業対象地においてクラスターや市中感染等深刻な感染拡大が発生した場合>

当団体の「Bangladesh安全管理ガイドライン」（2020年7月1日改定版）には、今回のCOVID-19感染拡大を受け、感染症についても安全管理ガイドラインに追加した。【レベル2：要警戒-活動は継続】から【レベル3：要警戒 -通常活動の中断あるいは行動制限】【レベル4：退避行動の開始・退避】まで、ガイドラインに沿って対応する。

- ・ISCGや各クラスターからの情報とともに、現地英字新聞を定期購読、現地コーディネーターによる現地新聞のリード・概要の翻訳などを通じて、常に治安情報の収集にあたった。
- ・事務所は、防犯カメラが設置されているなど警備が厳重で且つ複数の国際NGOの事務所のある建物内に置いた。
- ・COVID-19感染拡大の影響で事業地が感染症レベル3となっているため、現地事業統括は渡航せず遠隔で事業管理を実施した。

13. 想定していたリスクへの対応

想定していたリスク	対応
FD7（Bangladesh政府による活動承認の手続き）が遅れる	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の開始直後にFD7を申請し、5月8日付でNGO局から承認された。承認に要した期間は3週間と昨年実施した事業の時（10日間）と比較すると時間がかかった。申請時期がBangladeshの祝日（正月）前であったことも要因の1つと考えられる。この待機時間を利用して、事業スタッフの採用面接や各書類の整備などを行ったため、FD7取得後すぐに事業を開始することができた。 ・一方、FD7とは別に、難民キャンプ内での事業開始にあたっては対象キャンプのCiCによる活動承認のほか、RRRCの承認が必要となるなど、承認プロセスのステップが増えたこともあり、FD7取得後も現地での活動開始までには1ヶ月近くの時間を要する結果となってしまった。
サイクロン・モンスーンの襲来で工事が遅れる	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクロン等に襲来に備えて、修理チームが衛生施設のタイダウン（杭や柱で建築物を地面に固定する）のための準備をした。 ・雨季真っ只中での事業であったため、晴れている日や雨がひどくない午前中などを見計らってスケジュールを組みながら修理活動を継続することで、特にモンスーン・サイクロンの影響を受けなかった。

14. 広報実績

【事業地】

渡航制限のため事業地に日本人スタッフが駐在・出張することができなかったが、事業スタッフおよび連携団体を通じて、本事業がジャパン・プラットフォーム(JPF)の支援によるものであるというこ

ジャパン・プラットフォーム提出用 *(フォントはMS明朝、10.5ポイントを使用のこと。)*

2020年11月30日報告

報告団体名：認定NPO法人IVY

とを各キャンプのWASHフォーカルや裨益者に対して説明した。さらに、バナーとステッカーを活用し、事業説明や啓発、研修時のバナーに使用、修理が完了した衛生施設に「IVY-DSK 修理チーム」とロゴを添付したことで、JPFのビジビリティを確保した。

【団体 Facebook 関連記事】※本事業を紹介する際、文末に本事業が JPF からの助成である旨記載。

- ・2020年6月19日（金）「衛生施設の修理人材育成事業を開始」
- ・2020年8月4日（火）「修理チーム活動の様子」

15. その他の報告事項

- ・特になし。

以上